



広島国際学院
創立76年

広島国際学院大学
HIROSHIMA INTERNATIONAL COLLEGE UNIVERSITY

平成十六年度から

大学は大きく変わる！

新設「バイオ・リサイクル学科」で夢を追おう……	2
新設「情報デザイン学科」で身につける実力……	3
特集「ナノテクノロジー」の研究……	4・5
電気・情報関連学会中国支部第54回連合大会 工学部 ……	6
学部ぐるみの就職支援 現代社会学部 ……	7
資格取得へまっしぐら 短期大学部 ……	8
高校から発信 高等学校 ……	9
私の大学生活 ……	10
社会人になって思うこと ……	11
85年の歳月 ……	11
シリーズ献血③ ……	12
第36回高城祭 ……	12
広島六学野球優勝 ……	13
全日本学生アーチェリー選手権 3位 ……	13
研究室紹介 ……	14
ハイテク・リサーチ・センター研究成果報告会 ……	15
「社会調査士」養成講座 ……	16

「立町キャンパス」サロン

表紙写真=工学部電気工学科教授 河野健次 撮影

広報

第56号

平成16年1月1日発行

新設「バイオ・リサイクル学科」で夢を追おう(工学部)

—— ときめいてバイオ、ひらめいてリサイクル ——

工学部バイオ・リサイクル学科設置準備室 教授 佐々木 健

バイオ・リサイクル学科が平成16年4月より工学部に新設される。この学科はおそらくわが国で最初の、リサイクル専門の学科である。まだまだ未完成の部分の多い新分野。このあたらしい学科で、いろいろな夢の実現をめざそう。

新学科で何を勉強し、どのように将来の夢を見据えるか、ご紹介する。

バイオ系



1. 遺伝子の取り扱い、遺伝子による食品安全評価、遺伝子組み換えと医薬品の生産技術
2. お酒、ワイン、パン他発酵食品の製造基礎技術、バイオリクター操作技術
3. 食品、農産廃棄物のリサイクル利用
4. 環境浄化のバイオ技術、排水処理、遺伝子技術とリサイクル
5. 名水の研究

ヘドロで作った生分解性プラスチック

6. その他バイオ技術、バイオ・リサイクル技術全般

わくわくバイオ授業



リサイクル系

1. 自動車リサイクルのための基礎技術、極限環境技術(低温、超真空)
2. 家電リサイクルのための基礎技術
3. 高純度金属とリサイクル、超伝導物質の研究
4. プラスチックリサイクルのための基礎技術
5. その他、リサイクル技術全般

バイオ系、リサイクル系は、入学後1~2年で選べ、両方勉強することもできる。これらの新しい分野の勉強は、「ときめきとひらめき」が重要である。まだ発展途上の新分野で、学生のひらめき、ときめきがノーベル賞の田中さんのように、そのまま新リサイクル技術に発展していくのである。新しいリサイクル技術を発明、開発しよう。特許も資格もとりよう。学生ベンチャーで、会社の社長にもなろう。

各種リサイクル法が施行され、広島では、どのようなリサイクル技術にも対応できるマルチな技術者が必要となっている。つまり、地元・広島での就職や起業が有利になるということである。

資格取得への展望

資格について特に強調したいのは、教職免許(中学校理科、高等学校理科)が取得できること。広島地区でこの免許が取れるのは、広島大学を除けば、近畿大学工学部しかない。理科教員資格は、教員にはもちろん必須だが、食品、環境関連分野で、リーダーとして役に立つ生きた資格になる。その他、技術士、修習技術者、バイオ技術者中級・上級、公害防止管理者、危険物取り扱い主任者の資格取得を指導している。

広がる進路の確実性

将来の進路としては、環境コンサルタント、環境関連企業、食品会社、製薬会社、自動車、電機、機械関連の企業への就職が展望できる。事実、バイオ・リサイクル系の内容を持つ本学大学院物質工学専攻の卒業生はこれら関連企業で活躍している。

また、広島大学、愛媛大学、広島県立大学など、国公立大学への大学院進学に、特別なコースを設けて教育している。合格実績もたくさんある。本学で理科の教職をとり、他大学大学院へ進学するのもひとつの選択である。国公立大学の大学院入試は英語と専門試験だけである。人によってはセンター試験より楽に点がとれる。もちろん、本学にも大学院(修士、博士課程)があり進学できる。このように、広島での他大学にないユニークな教育内容で、教員や仲間と一緒に、夢を追おう。



リサイクル

幅広い人材の募集

新設される情報学部・情報デザイン学科は、数学や物理が不得意という学生（もちろん得意な人もOKです）でも十分に能力を育てて行ける分野です。しかし、文系の情報リテラシーに重点を置く学科とも違い、これまでのITデザインコースやメディアステーションでの豊富な財産を受け継いでいます。工科系ではありますが、デザインでの個性や美的センスが生かされるなど、文系要素の濃い学科内容にも特色があります。この点からも幅広い人材が期待されています。



企業・自治体・組織でのコンピュータ管理者へ

「コンピュータが使える」から、コンピュータが分かり、様々な場所で「コンピュータの使い方が教えらるる」管理者を育てます。経済産業省の平成15年10月プレス公開による情報処理実態調査では「1企業当たりの社内のコンピュータ利用者をサポートするコンピュータ管理者は利用者数の1.3%にすぎない」と指摘しています。コンピュータウイルス対策やセキュリティ問題が重要になっていることなど、コンピュータ管理者がますます必要になっています。

新設「情報デザイン学科」で身につける実力(情報学部)

——— 柔軟な感性を生かし育てる! ———

情報学部情報デザイン学科設置準備室 教授 たかくわ よしあき 高桑 誠明

情報空間デザインのエキスパートへ

本学科では、「情報発信の総合的デザイン能力」と「情報システム管理能力」を備える人材を育てます。まず、①インターネット関連技術の教育を基礎に、②コンピュータグラフィックス(CG)、アニメーションやサウンドなどマルチメディア作成に関する教育を行い、③Web関連の表現デザインと、④データベース等の情報資源を管理運用するシステムデザインから構成される情報化支援に関する総合的デザイン教育を行います。これらにより、情報発信を豊かにデザインするコンテンツ作成者、ビジネスの情報化を支援するアプリケーション開発者、及び情報システム管理者を育成します。前述の調査報告中でも、電子商取引(EC)の実態が述べられています。企業でのビジネスの場でも、自治体・公共団体や個人の情報発信の場でも、よりいっそう質の高いITエンジニアが要求されています。

資格取得の支援

実務的な資格から高度の資格まで幅広い取得支援を行います。◎シスコ認定資格CCNA、◎基本情報技術者（講習会を開くなど、支援体制が整っております）、◎高等学校教諭1種・情報、数学（教職課程を履修し、条件を満たすと教育職員免許が与えられます）の他、◎CG検定、◎情報活用能力検定、◎システムアドミニストレータ、◎情報セキュリティアドミニストレータ、◎ソフトウェア開発技術者等の資格取得の支援体制を強化します。



数年前から、IT、環境、バイオと並んでナノテクに関する記事が新聞をはじめとした多くのマスコミに紹介され、将来の日本の産業を担う重要な科学技術として、産業界にとどまらず一般でも注目を集めている。

このナノテク（ナノテクノロジー、Nanotechnology）の応用としてよく知られているものは、ナノマシン、カーボンナノチューブ、高強度新素材、高密度記憶素子、高性能磁気ヘッド、単電子素子、高効率太陽電池などがあげられ、その分野は機械、材料、エレクトロニクス、ライフサイエンスなど多岐にわたる学際的な科学技術となっている。

さらに、これらのものをナノスケール（100万分の1ミリメートル）で加工し、その精度を計測することもナノテクノロジーを支える重要な技術である。本学機械工学科の精密加工研究室には、超精密加工試験機、超精密研削盤、走査型プローブ顕微鏡および走査型レーザー顕微鏡などが整備しており、これらを用いて精密（precision）もしくは微細（nano-scale）な加工（machining, modification）や測定（measurement）に関する研究を進めている。

走査型プローブ顕微法によるナノスケール加工

走査型プローブ顕微法は、種々の環境で原子スケールまでの高い分解能を持ち、物質表面の原子の観察、原子の周りの電子的、磁気的特性を画像化できるのが特徴である。これに加えて、個々の原子のマニピュレーション機能を用いる微細加工（ナノスケール加工）や高密度記録も可能であり、新機能素子や高密度記録媒体などの開発に期待されている。ここでは、Ni、Cu、Alなど純金属表面に深さ5～50nmの微細加工を行い、加工条件と加工分解能・能率の関係を把握し、その可能性を明らかにしている。

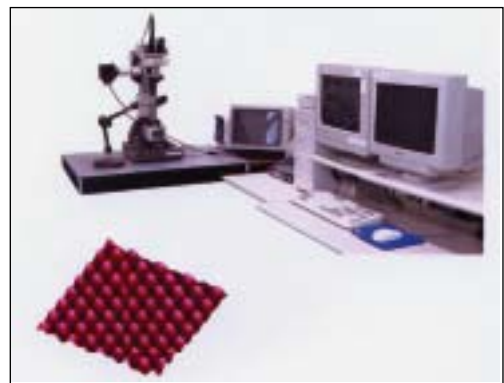


図1 走査型プローブ顕微鏡システムとグラファイト原子面の観察結果

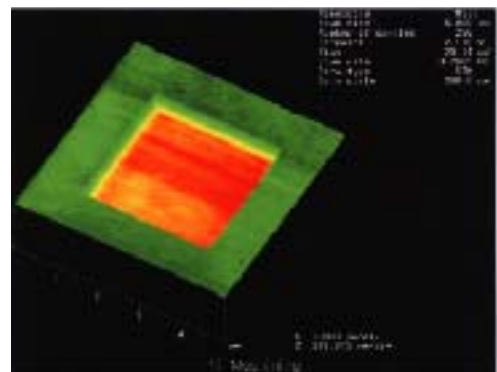


図2 Ni表面に深さ100nmの角穴を微細加工

ナノトライボロジー

前述の走査型プローブ顕微法による表面形状の観察や微細加工では、試料表面と探針の間のトライボロジー（摩擦、摩耗、潤滑）において、表面特性に敏感な現象が現れ、材料のバルク特性に支配される従来のトライボロジーに関する知識では対応できないことになる。ここでは、探針と試料表面の接触問題に関する諸現象の観察および測定が検討できる走査型プローブ顕微鏡を構築し、原子スケールからマイクロメートルスケールまでの摩擦特性を試験するとともに、ヘルツ接触、弾性流体潤滑膜、毛管凝縮などの観点から考察を加えて、ナノスケールの加工や摩擦のメカニズムを明らかにしている。

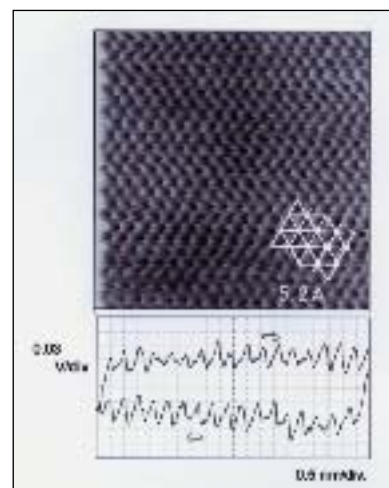


図3 白雲母の原子配列に対応した摩擦力変化を観察

硬脆材料の超精密加工

半導体基板に用いられる単結晶シリコンや光学レンズに用いられるガラスなどを硬脆材料という。これを高精度に仕上げる工程として、現在、ラッピングやケミカルエッチングのプロセスを採っている。しかし今後はこのプロセスを運動転写原理にもとづく超精密切削・研削加工で置き換えるよう求められている。ここでは、シリコンウェハや光学ガラスの超精密研削の要素試験を行い、欠陥のない高品位な加工面が得られる、いわゆる延性モード加工を実現するための加工条件の把握と、その加工メカニズムの解明を行っている。



図4 シリコンウェハの超精密加工試験

自己組織化膜の観察

簡便にダイオキシン類濃度をスクリーニングできる精度の良いセンサーの実用化を目的として、抗原抗体反応と電解発光を応用したダイオキシン類の濃度測定装置の開発が(株)サタケにおいて進められている。この研究に協力して、金基板の調製方法を検討するとともに、この基板に共有結合させた抗体膜（自己組織化膜）の観察から膜生成方法の検討を行っている。

超高純度金属のナノインデンテーション

ナノインデンテーション機能を組み込んだ走査型プローブ顕微鏡を用い、不純物、転移および粒界などの影響が無視できる超微細領域の機械的特性を評価した。本学ハイテク・リサーチ・センターで精製された超高純度アルミニウムについて試験した結果、押し込み荷重と押し込み深さの関係に特異な現象が認められた。さらに、時間経過とともに、圧痕形状の頂点および稜線が丸みを帯び、浅くなるのが観察された。超高純度アルミニウムのような高完全度金属は、室温においても緩和を示唆する特異な挙動が認められることが超微細領域の評価で明らかになった。

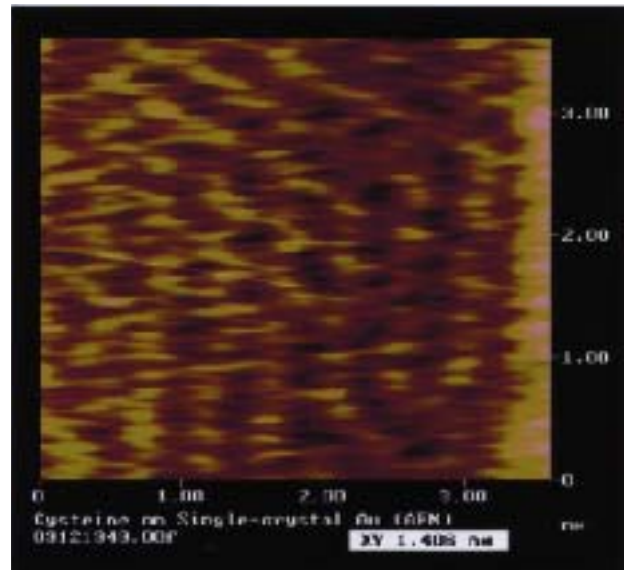


図5 金単結晶基板の上に $(\sqrt{3} \times \sqrt{3}) R 30^\circ$ 構造で自己組織化したシステイン膜

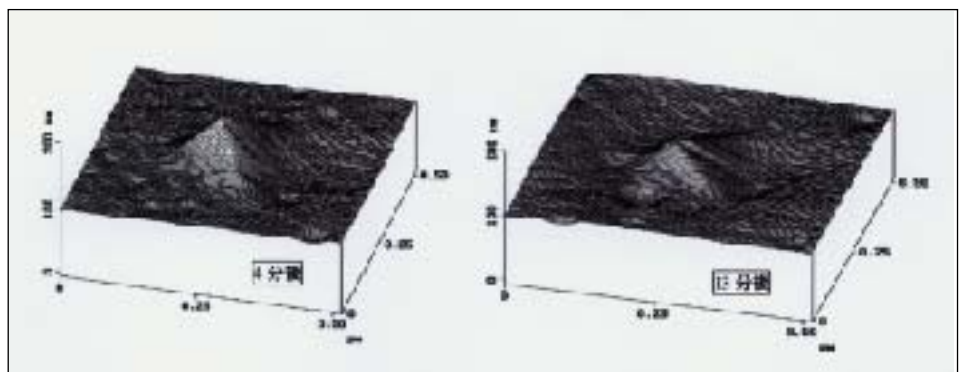


図6 超高純度アルミニウム (99.9999%) のナノインデンテーションにおける圧痕の回復

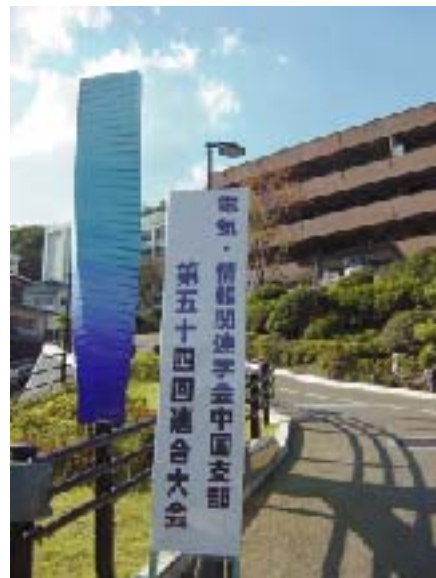
おわりに

紙面の関係上、概略のみ紹介したが、詳細については精密加工研究室のホームページ <http://mic.m.hkg.ac.jp/> に関連の記事および論文が掲載されているので、これを参照されたい。

電気・情報関連学会中国支部 第54回連合大会開催される

工学部

秋晴れの10月18日、工学部にて開催された。本連合大会は昭和25年（新制大学発足の翌年）第一回を開催、爾来、身近な研究発表の場を大学等の研究機関に提供してきた。研究の成果の第一報を発表する機会を、特に若い研究者、大学院生、学生に与えてきた功績は高く評価されている。本大学では昭和55年、61年、平成5年に次いで4回目の開催である。今回、発表論文数465件（過去にない最高数）、21分科会、28部門、座長数75、全部門参加者延べ1733人（大会参加者は約800人）に及んだ。参加機関は、大学22、高専10、高校1、企業等8で、中国地方はもとより、関東、近畿、九州、四国からの参加もあり、全国規模の大会となった。最も数多くの論文を発表したのは75件の山口大学、第2位が広島工業大学の55件、本学は16件で第11位であった。実行委員会幹事は情報工学科が担当し、電気工学、メディア情報通信両学科の協力を得て、成功裏に大会を終えた。尚、本学での次の大会は、10年後の平成25年に行われる予定である。
（文責 大会実行委員長 水上孝一）



—— 地域と教育 —— 「特別講演」 本学 教授 田 崎 三 郎
地域に目線を合わせた社会貢献と学生への付加価値を！最重要視！

大会の「特別講演」として、工学部情報工学科の田崎三郎教授が戦後教育の流れと、今日的状況について熱く語った。

【要旨】

60年代後半に起こった大学紛争がきっかけとなって、明治初めの「帝国大学令」、戦後の「教育基本法」に続く第三の教育改革と位置付けられる「四六答申」が中教審により行われた。この案は当時社会や大学からの反対で直ちに実施されなかったが、以後文部省（現文部科学省）は着々と「四六答申」実現を進めてきた。その例が単位互換制度や大学・大学院受験資格の学歴不問、在学年限の廃止であり、仕上げが国立大法人化である。そして今世紀になって、「一県一国立大原則」は廃止となり、「21世紀COEプログラム」、「大学教育支援プログラム」、さらに「大学の地域貢献助成プログラム」が次々と打ち出されている。



一方、豊かさや少子化による「全入教育」時代の到来を目前に控えているのに、これら文部省による大学改革に対する大学側の対応は極めて鈍く、世間からは大学内では世間常識が通用しないとまで言われた。ただ法人化決定後、ようやく改革へエンジンがかかりつつある。



さて、私の『地域活性化に結びつく大学改革』案は、教員個人の教育、研究、及び社会貢献に関する業績を三次元空間上の3軸で表しその総合評価を予算配分や待遇に反映させること、大学評価に教育評価や管理評価と共に、地域住民や地元産業に目線を合わせた社会貢献評価を取り入れること、教育システムでは入口、在学中、出口の中で「在学中」の対応が改革に最も重要なことを述べている。

先輩から学べ！ 積極的就職支援

—— 就職シンポジウムを開く ——

昨年3月、1期目の卒業生を送り出した。年1回の自己プロGRESS検定、企業インターンシップや就職セミナーなどで、就職支援の充実化を毎年強化している現代社会学部である。

今年の日玉は、9月22日の就職シンポジウム。卒業生に加え、進研アドの大石扶美子氏をコーディネーターとして迎え、就職活動に関するパネルディスカッションを開催した。



就職活動を間近に控えた3年生だけでなく、1・2年生にもできるだけ早く「自己分析・自己発見」を行なって、自分に適した職業を見つけて欲しい、業界・企業研究に向かっていって欲しいという願いで企画された。

卒業生は、山口県でダイキ(株)(ディック)に勤務する久保氏、広島県で(株)石崎本店に勤務する吉井氏、名古屋で福山通運(株)に勤務する安野氏、広島県で広島リコー(株)に勤務する土肥氏の4名。「どのようにして自分にあった仕事を見つけたのか」「学生の時にしておけばよかったこと」「自分の就職活動」など、卒業生達の率直な体験談・メッセージは、在学生に就職活動の具体的なイメージと意欲をもたらしたようである。

できるだけ早く「自己分析」「自己発見」を！

「参加してよかった」が89%、「内容がよかった」が89%と身近な先輩の助言は学生の心に響いたようであった。会場からは「もっと学生のうちにいろいろと取り組まないと」と自分を見つめなおしたり、「なかなか思いつかない職業や企業で働いている人は、どうやってその仕事を見つけたのか知りたい」と新たな要望も聞こえてきた。就職に前向きになっている学生にも、ちょっと立ち止まっている学生にも、次のステップを踏み出せるような支援を今後も実践しつづけた現代社会学部である。



大学院現代社会学研究科 開設記念行事を開催

11月22日(土)、立町キャンパスにて、大学院の開設記念行事が行われた。葉佐井博巳学長は「広島原爆から見た核」、中野秀一郎研究科教授は「現代科学技術文明と生活リスク」と題し記念講演をした。また在学生の植松君がお祝いに駆けつけて、「烏陣太鼓」を披露した。太鼓の音は、行き交う人々も足を止め、神妙に聞き入るほど力強く立町に鳴り響いた。



中野秀二郎 教授



葉佐井博巳 学長



熱演！

専攻科進学を目指して

自動車短期大学部2年 おきます つよし 沖増 剛

車って面白いですよ。調子が悪いと悪いようにしか動かないですからね。口を利かず感情がなく、それでいて正直者です。整備する側は独りで故障部位がどこかを見つけて修理、調整しないとイケません。ぼくは車のそんなところが好きなんです。車は日々進化を続け、電子化が進み高度化しているために、整備士の守備範囲が広く深くなっているのが現状です。

この短大に入るまでは勉強があまり好きではありませんでした。幼い時から自動車やバイクには興味があり、近所の板金工場に足を運んでいました。そんなぼくにおじさんが「バイクが壊れて動かないから、ばらして勉強してみるか？」といってくれたので持って帰り、いろんなところを分解しガソリンで洗浄しました。そのうち、点火プラグのギャップが全くないのを発見し、はがき2枚分のギャップを取り再び組み付けて数回キックしたところ、見事にエンジンがかかりました。なんとうれしかったことでしょう。乗ってみたら走ったのです。天にも上る思いだったのを覚えています。その時、自動車整備士になりたいと思いました。

そこで僕が目指しているのが1級自動車整備士です。昨年初めて認定試験が行われましたが、その合格率たるや3%ということです。それも現役でメーカーの上級整備士の資格を取得している人達が多く受験しての3%ですから、実務経験のないぼく達学生ではよりいっそう難しいこととなります。ぼくは早くから1級を目指していたので、履修できる教科はすべて受け、かつ、単位を取得しました。自分なりによくやったと思って専攻科の学内選考に応募したのですが、成績が芳しくなく選に漏れました。



専攻科に進むためにはそれなりの成績をあげないと入れないということが分かってから、自分自身が努力しないとどうにもならないのだということをややく知りました。遅きに失した感はあるですが、心を入れ替えて勉強に取組んでいます。成績も徐々に上がっていることがはっきりと分かります。3月には2級整備士の国家試験があります。ガソリンとディーゼルの両方に合格しないと専攻科には進めません。いま掲げている目標に向かって一生懸命努力し、夢がかなうように頑張ろうと思っています。

● ゼロハンカーに夢中！ - 4年間の活躍 -

ゼロハンカーとは、50ccエンジン搭載の手作りの4輪車である。自動車短大部では、選択授業でゼロハンカーを作り、毎年8月に開かれる「全国ゼロハンカーレース」に出場している。

レースは広島県世羅郡小谷スポーツ公園で行われる。S字やヘアピンを含む1周約500mのコースを3周スピードを競うレースである。学生クラスには主に中国地方の大学、高専、高校から、例年25~30台が出場している。

自動車短大部では、小回りのきく頑丈なクルマを新作又は改造かさね出場している。これまでの戦績は以下の通りである。

- 2000年 初出場初優勝 (1台出場)
- 2001年 3位 (2台出場)
- 2002年 準優勝、特別賞 (3台出場)
- 2003年 6位 (3台出場)リベンジ大会1位、2位(2台出場)



● 就職内定100%を確実に！ - 総力を結集した活動と指導 -

自動車短大部では、目標を次の2点におき、総力を結集して就職指導を行っている。

- ① 希望者は全員内定させる。 ② フリーターを卒業生の10%以下にする。

指導は、短大部就職委員会が中心になって作成した指導スケジュールに基づいて行われている。

- ① 1年生前期 小冊子「就職の手引き」を配布、動機づけ、個別相談を開始。
- ② 1年生後期 作文、面接など就職関連ゼミナールを開講、受講させる。
- ③ 同 上 企業研究のため一人2社以上の会社訪問を奨励。
- ④ 同 上 採用情報収集のため、ディーラによる説明会を学内で実施、全員参加させる。
- ⑤ ~卒業まで 受験のアドバイス、履歴書の点検、模擬面接など。

なお、教員の対外活動として、採用情報の収集・卒業生の状況把握のためのディーラ訪問等も行っている。以上のような活動の結果、就職超氷河期といわれる中、内定は100%(対希望者)を継続中である。



丁寧な個別指導

オープンスクールに1,500名来校 =中学生・保護者で溢れるキャンパス=



去る9月28日(日)、1500名という多数のオープンスクール参加者で校内は溢れかえった。例年にも増す多くの参加者のため大きく2つの班

に分けて開催した。全体会では、在校生や卒業生、留学生による意見発表等が行われ、続いて公開講座などの見学を行った。終了後は食堂とピロティの特設食事場所での学食試食。クラブ活動見学、中庭での吹奏楽部の野外ステージ等を熱心に見学していた。今年度も盛大のうちにオープンスクールは終了した。

◆盛り上がる文化祭◆

文化祭が11月23日(日)、晴天に恵まれ盛大に開催された。今年度のテーマは「stand up!」。

神楽「山岐大蛇」演舞披露熱演



今回、千代田高校芸北分校の生徒たち約20名が友情出演した。8頭もの大蛇が舞台狭しと舞う勇壮さに観客は圧倒されていた。高校生とは思えない演舞に大きな拍手はいつまでも続いた。

イラク写真展

本校社研部はイラク写真展を行った。新聞等でもすでに報道されていたこともあり、問い合わせも多く、関心の深さを物語っていた。

中庭に展示されたゲルニカもみんなの注目を浴びていた。



楽しかった修学旅行

今年度は新型肺炎SARSのため、予定された海外旅行の2コースはやむなく信州・東京方面に変更して実施した。

満喫！ ダイビング 沖縄の旅

太平洋に浮かぶ無人島「浮原島」でのダイビング。この沖縄コースは、マリンスポーツを中心とした体験学習が目的である。レッスンを受けて、2日間スキューバダイビング体験。海中の珊瑚礁や美しい熱帯魚が自分のすぐ目の前に…感動的な修学旅行であった。



激流をゴムボートで！ 北海道体験学習の旅

レンガ倉庫や木造洋館が点在し、光り輝く夜景が素晴らしい函館。古き良き時代の息吹を今に伝える小樽。北の都札幌でのラーメンの味。ルスツでの2



日間の体験学習では、トレッキングをしたり、ジャムや薫製を作ったり。中でも「ラフティング」はゴムボートで激流を下るスリルと醍醐味を味わう。北海道の雄大な自然に存分に親しんだ。

黒部の紅葉が！ 信州・東京の旅

今回の旅は、立山黒部アルペンルートという大自然と、超近代的都市「東京」という対照的な組み合わせの行程である。黒部ではマイナス2度の世界を体験する。一日過ごしたディズニーランド。浅草や江戸東京博物館、それに最も楽しみであった「お台場」と東京の観光を満喫した。



日本語教室の ボランティアに参加して

—— 国際交流は地道な活動こそ大切！
私に問いかける体験

現代社会学部3年生 立川真規

私は去年の夏ごろから海田町の日本語教室のボランティアに参加しています。そこでは、毎週日曜日の10時から12時の短い時間で、ブラジルやペルー、中国などから来ている外国の人が日本語を学習したり、楽しく世間話をしたりしています。

初めは何をどう教えればいいのか分からず日本語も通じないので困っていましたが、辞書を使ったり絵を描いたりしてどうにかやっていました。最近は少しずつ学習者の個性が分かってきたので彼らに合わせて楽しく学習のサポートができるようになりました。

日本語を教えるとき、どうしても意味を教えがちですが、相手の言語で意味が分かればその必要はなくなります。その為、辞書は手放せませんが、私達が英語を学習するのと同じことなのです。何度も同じことを学習しながら彼等が日本語を話せるようになって、少

しでもその人の役に立てたらうれしいと思っています。そして人として接するのに国境はないとわかりました。日本語を教えるようになって実感したのは自分の国語

私の大学生活

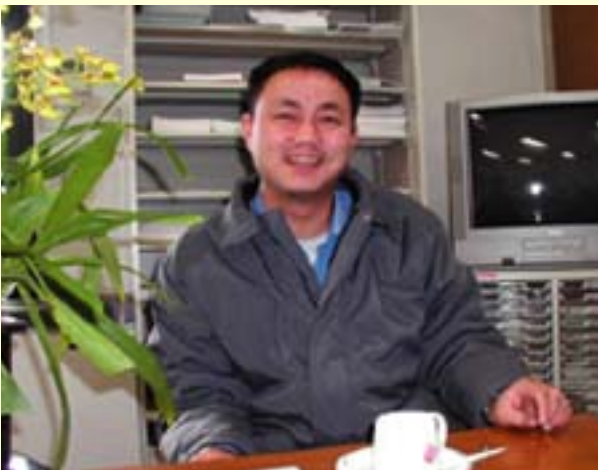
力の無さです。普段使っている言葉でも改めて意味を尋ねられると戸惑ってしまいます。日本語を教える前に日本語力をつけることも大切なのです。日本語教室のボランティアは6、7人しかいません。一方日本語教室に来る学習者は、日によって違います。多い時は20人近くにもなるので、人手が不足しているのがこのボランティアの悩みでもあります。国際交流は華やかなイベントや海外旅行だけでなく、こういった地道な活動こそ大切ではないのか、そんなことを私に問いかける経験です。



ゼミでの風景

私は陳宇杰と申します。留学生として、去年、中国の黒竜江省から来ました。大学に入って勉強するのは、長い間私の夢でした。そして、国土も小さい、資源にもほとんど恵まれていない日本はなぜこんな大きな経済力を持つのか、この疑問を解明するためにも、日本への留学の道を選びました。

不安を抱きながら、広島国際学院大学の留学生活がはじまりました。幸い先生は、授業を丁寧に教えてくださるだけでなく、生活面もいろいろ面倒を見ていただき、私もこちらの生活に慣れるとともに、立派に学校を卒業する自信を強くすることができました。



先生が授業を丁寧に教えてくださると語る

そして、学校だけではなく、アルバイトなどを通じて、日本の社会に対する認識も少しずつ深まって来ました。日本人の勤勉、まじめさに感心しました。もう一つは、社会のマナーがいい。通勤ラッシュの時、みんな自動的に列をつくって順番に乗り降りしますし、環境意識が強く、町の中にもほとんどゴミがありません。

これからも、日中両国の人と物の交流はもっと盛んになると確信しています。日本の技術、資金と中国の豊富な資源、労働力、広い市場をうまく利用すれば、両国にとって、大きな利益になるでしょう。この歴史のながれのなかで、私も初志を忘れず懸命に勉強して、将来、日中友好交流のために、僅かな力でも貢献できるように頑張りたいと思っています。

深まる日本社会への認識

—— 将来、日中友好交流に
貢献できるよう頑張りたい！

工学部機械工学科2年生 陳宇杰

社会人になって思うこと

「一人の人間が世界を変えていくことができる」
という不屈の精神と勇気を!

高等学校電気科昭和41年3月卒業 広島県佐伯郡沖美町長
松井 晃

昭和41年4月広島県佐伯郡沖美町に事務吏員として採用され、地域住民の福祉向上と沖美町の発展のため、大きな希望と夢を胸に無からの出発でありました。

爾来35年の長きに渡り、役場の各部署で奉職させて頂きました。時には壁にぶち当たり、困難な状況が何度もありましたが、先人達のご指導・助言等により何とか大過なく事務事業を推進することができたと思っております。

役所の仕事の中から学んだことは、町政の発展のためには「一対一の対話と地道な努力」が必要ということでありました。今日の行政推進に当たって言われていることは「人間本位、民衆本位」の地域社会の構築であります。このためには少数意見の尊重、いわゆる弱者の声にも耳を傾けることに留意しなければなりません。また、現代社会の風潮として、「自分一人ではどうにもならない。何をしても状況は変わらない」というあきらめがあると思いますが、行動していけば必ず大きな変化と波が起きるものと確信しております。

「一人の人間が世界を変えていくことができる」という思いと不屈の信念、勇気を持ち、情熱を燃やしてほしいと強く思います。

この実践により、今日では地域住民からも評価されるようになって来ているところ

です。私は現在、沖美町長として「悔いのない日々であれ!」をモットーに今日までの経験を生かし地域住民の付託にどのよう

に答えるか、政治並びに行政に日夜努力しておりますが、日々が多忙の一言に尽きます。終わりにになりましたが、広島国際学院のますますのご発展を心よりご祈念申し上げます。



町長室 執務

命絶えるまで使命と責任を果たす

「八十五年の歲月」出版記念式典を開く

名誉学院長 西本 五郎 著書

9月27日(土)広島ガーデンパレスにおいて、170名を超える出席者がよろこびを分かち合った。式典に引き続き祝賀会も催された。以下は名誉学院長による挨拶の要旨である。

本日はお集まり頂き、まことに有り難うございました。

数え切れない程の「出会い」と「別れ」を繰り返し、多くのすばらしい先生や先輩等から、ご指導とご支援を頂戴いたしました。今日の私と、学校法人広島国際学院が存在するのはそのお陰と考えております。

「人生終わりよければすべてよし」の格言もあります。生命絶えるまで与えられた使命と責任を果たしてゆくつもりです。今後ともご指導ご支援の程よろしくお願い申し上げます。



「八十五年の歲月」の出版を喜ぶ



シリーズ献血③ 大学献血を積極的に推進する

学友会厚生委員会から発信！

今回は私たち厚生委員会の活動について紹介します。厚生委員会では広島県赤十字血液センターと協力して、年間計5回の学内献血を行っています。中野キャンパス3回、上瀬野キャンパス2回です。シリーズの第一回で申し上げたとおり学内献血は重要ですので、立て看板を製作したり、当日はビラを配布したりして、多くの人に献血して頂けるよう活動しています。



献血の輪を広げたい！

また、厚生委員会は広島県大学献血推進協議会（以下LAPROC）に参加しています。広島県内の大学・短期大学の学内献血を担当している献血推進団体とボランティアで構成される協議会です。LAPROCの目的は赤十字、大学献血推進団体で連携し、献血事業の動向を把握して大学献血を積極的に推進することです。私たちはセミナーなどに参加し献血に対する知識を深め、学内献血での問題点を共有し協議しています。また、毎月1、2回ミーティングを行って献血キャンペーンを企画し、案内広告をティッシュに詰める作業などもしています。そして、夏のサマー献血キャンペーンや冬のクリスマスキャンペーンでの街頭献血もあります。

このシリーズも今号で一区切りとなりますが、今後とも皆様の御協力をよろしくお願いいたします。

去りゆく時間 — 猛スピード



このお好み焼きはうまかった！

この高城祭を開催するにあたり学生は通路などを清掃し地域の方々への理解と参加を呼びかけた。
この期待にこたえた。
最終祭（9日）には、ゲストライブに「ガガガSP」が来たこともあってか雨にもかかわらず約二〇〇〇人の来場者がつめかけ、例年以上の盛り上がりを見せた。エンディングには花火が打ち上げられ、暖かさで歓声でグラウンドを震撼させた。ファイヤーも両日復活し来場者の期待にこたえた。



高城ファイヤー

第三十六回高城祭

疾風

去る11月8、9日に、中野キャンパスで第36回高城祭「疾風」が行われた。大学祭当日、校内には色鮮やかな入場門や巨大な看板などが設置され、入場者を迎えた。グラウンドの入場門をくぐると学生によるバザー店やステージでの様々なイベントで賑わっていた。当夜祭（8日）の高城ビンゴ大会では、海外旅行（ニューカレドニア）を手に入れた幸運な参加者に歓声が上がった。また、県立広島女子大学のダンス部「ピラニーズ」による魅惑のダンスやカラオケコンテストなども観衆を沸かせた。



わびさびの心

優勝

中・四国大会出場



スポーツニッポン新聞社提供
歓喜の胴上げ

本学硬式野球部は広島六大学野球秋季リーグ戦において、14季ぶり2度目の優勝（戦績8勝2敗、勝ち点4）を果たしました。苦戦が予想されたなか、部員が一丸となって奮起し、この栄誉を勝ち取りました。その後全国大会への出場をかけて中・四国大会決定戦（各リーグ代表3チームによるリーグ戦）に挑んだものの1勝1敗に終わり、全国大会出場の切符を手にするにはできませんでした。

中・四国大会においては、高校野球部員を先陣とする本学関係者の大応援団が球場に駆けつけました。勝利を祈り一心不乱に繰り広げられた声援のもと、球場全体を包み込む一体感のなかで、いつしか忘れかけていた『信和・協同・実践』の精神を呼び起こすとともに、心の底から熱くこみ上げてくる感動を覚えました。選手はこの優勝で得た

『優勝』…それは感動&感謝

自信、これまで成長を見守ってくださった方々への感謝と計り知れない喜びと感動を胸に、決しておごることなく来季に向け新たな気持ちで練習を再開しています。

本学を初め学校関係諸団体のご支援、遠路駆けつけてくださった学校関係者、硬式野球部OB会・保護者会、そして本高校硬式野球部員の皆様の激励と声援に厚くお礼申し上げます。

なお、今季は硬式野球部だけでなく、軟式野球部もリーグ戦で優勝しました。心からお祝い申し上げますとともに、これから本学院各野球部がいくつもの感動を誕生させてくれることを願うものです。



高校生の大声援！

三位入賞 第四十二回全日本学生アーチェリー個人選手権大会

つぎの目標へ狙い定めて！

夢があるから頑張れる

工学部機械工学科二年生 瀬尾聡祐



夢があるから頑張れると話す

高校のときにアーチェリーを始め、今年で四年目になります。本学は高校の時よりも練習場の設備がとても良く、効率の良い練習ができます。そのおかげで、この度予選を勝ち抜き出場した第42回全日本学生アーチェリー個人選手権大会で、個人3位に入賞することができました。

アーチェリーは単純なスポーツですがとても奥は深いもので、私自身様々なことで辛い思いをし、悩み苦しむ日も少なからずありました。しかし不思議にも、本気で辞めたいと思ったことは一度もありません。アーチェリーは個人種目であり団体種目でもあります。だからこそ一人ひとりが己のことをしっかりと把握しなくてはなりません。現実の自分とイメージの自分との差をいかにうめていけるかで、成長に大きな差が現れます。これは簡単そうでとても難しいことです。私もまだ四年目の未熟者ですが実感していますし、このため日々努力しております。

スポーツにおいて必要とされる『心・技・体』のなかでも心（精神）が大変重要で、アーチェリーには特に欠かせないものです。以前は精神を鍛えることなどできないと思っていました。しかし、実際にいろいろな試合で経験を積み、鍛えられたおかげで結果を出せたのだと思います。目標や夢があるからこそ人は頑張れるのです。

来年は優勝できるよう、そしてオリンピック選手になる夢を叶えられるよう、今以上に精進努力したいと思います。

工学部 共通基礎講座

いりざわまさのり
入澤 雅典 研究室

体育研究室では、体力の維持増進、生涯スポーツの獲得といった二つの観点を中心に教育研究を行っている。

体力の維持増進に関しては、最近、大幅に改装整備された冷暖房



トレーニングルーム

完備のトレーニングルームを中心に授業を展開し、日頃運動不足の学生の筋力、有酸素能力（持久力）向上を図り、体力を増進することの重要性を理解させることを目的としている。それと共に、学生の体力レベルの変化が学生生活へ与える影響等の研究活動にも取り組み、よりよいプログラムの開発を進めている。体育館が「心臓破りの坂」の上にあるため、トレーニングルームも授業以外の利用率が低いのが現状で頭を悩ませている。今後は、教職員の利用も大いに促進させたいところである。

生涯スポーツの獲得に関しては、社会に出てからも趣味として続けられるようなスポーツ種目を多く取り入れ授業展開し、種目のおもしろさが分かる最低限の

スポーツ技術を習得することに力を入れている。種目としてはゴルフ、スキー・スノーボード、ミニテニス、フライングディスク等々である。学外での集中授業も取り入れ、より実践的な技能を身につけることで、できるだけ多くのスポーツ趣味を学生時代に修得してほしいと願っている。また、この分野では初心者指導用器具の開発や効果的な指導法の研究なども平行して行い、学生のニーズに応えられるような研究室を目指している。

健康を害した場合は、保健室へ行くことを勧めるが、「より高いレベルの健康で充実した学生生活を送りたい！」と願う学生諸君、体育館2Fのフロアーの我が研究室を訪問することをお勧めする。後悔はさせない。



筋力強化！

健康を害した場合は、保健室へ行くことを勧めるが、「より高いレベルの健康で充実した学生生活を送りたい！」と願う学生諸君、体育館2Fのフロアーの我が研究室を訪問することをお勧めする。後悔はさせない。

健康を害した場合は、保健室へ行くことを勧めるが、「より高いレベルの健康で充実した学生生活を送りたい！」と願う学生諸君、体育館2Fのフロアーの我が研究室を訪問することをお勧めする。後悔はさせない。



スキー強化練習を終えて

現代社会学部

ぬまのじろう
沼野 治郎 研究室

学生は研究室に来ると、本がたくさんあるね、全部読んだ？なんて言ってくれるが、同僚から見ると本があまりない部屋である。以前、本であふれそうになるのに、用が済むと手にとることもない



自分に気付いた。それ以後なるべく図書館を利用するようになった。研究の分野が学際的になっているためでもある。

しかし関心が向かう分野は、言語学の音韻論が中心にあり、言葉が変化していく様に興味がある。最近では東アジアにおける英語の使用、日本語、韓国語、中国語間のバイリンガルについて研究している。

「ワールドイングリッシュ」といってインド、シンガポール、フィリピンなど特徴のある英語になっても、各地の英語を受け入れるべきではないか、必ずしも英米などの英語そっくりに話せることを目指す必要はない、という声がイギリス、日本、アジアの学者からあがっている。昨年も英国人学者の講演で、日本風の英語になってもよい、自信をもって話し、発音するよう励ますのを聞いて、意を強くした次第である。言語は背後に、社会的、政治的な力が働いて突き動かされている面がある。日本人は今後、英語は今日必須の道具としてマスターし、隣国である韓国、中国の言葉も身につけていきたいものである。

研究室は授業時間以外、ほぼ毎日オフィスアワーとして学生が訪ねてくるのを歓迎している。今担当していなくても英語の勉強をしに訪ねてきてくれるのが嬉しい。皆で言語の境界線を越えるようにしよう。

研究室は授業時間以外、ほぼ毎日オフィスアワーとして学生が訪ねてくるのを歓迎している。今担当していなくても英語の勉強をしに訪ねてきてくれるのが嬉しい。皆で言語の境界線を越えるようにしよう。

研究室は授業時間以外、ほぼ毎日オフィスアワーとして学生が訪ねてくるのを歓迎している。今担当していなくても英語の勉強をしに訪ねてきてくれるのが嬉しい。皆で言語の境界線を越えるようにしよう。



研究室にて

研究室紹介

5年間のハイテク・リサーチ・センターの研究成果を報告する会が、新しく広島市の中心街にオープンした「立町キャンパス」において9月20日(土)に開催された。

ハイテク・リサーチ・センターは、文部省(現在文部科学省)の私立大学研究高度化推進事業(ハイテク・リサーチ・センター整備事業)によって平成10年(1998年)4月に発足し、プロジェクト「超高純度金属の開発とその応用」のもとに、基礎研究を進展させ、開発・応用研究を行うことを目標として設立した。

研究は順調に進み、また研究開発や実用化も芽生え、研究論文のみならず、いわゆる知的財産権、特許、実用新案、ノウハウ等の基礎的・萌芽的データも蓄積された。2003年3月31日をもって当初計画である5年間の研究を成功裡に終了することができた。これらの結果を踏まえて成果報告会を開催した。



ハイテク・リサーチ・センター研究成果報告会プログラム

13時30分 開会

挨拶/葉佐井 博巳 学長

研究成果報告の概要/前田 裕司 センター所長

各研究報告

- 1 超高真空中で金属を溶解する/大園 洋仁 教授
- 2 超高純度金属の機械特性/李木 経孝 教授
- 3 クロムとクロム合金の力学的特性/大森 正信 元教授
非常勤講師
- 4 金属のナノ構造に関する研究/遠藤 敏郎 教授
- 5 ラマンレーザーの高出力化に関する研究/宮崎 和彦 教授

17時 ポスターセッション 発表者の方々および懇談

「クロムフリー改質表層形成の研究(ヘテロ環化物によるマグネシウム合金改質)」/松坂 菊生 教授

「アルミニウムの帯溶融法による超高純度化」/前田 裕司 教授

ハイテク・リサーチ・センター

研究成果報告会を開く

ハイテク・リサーチ・センター所長

前田裕司

展望と課題

会場の後部には、ポスターセッションのパネルや、ハイテク・リサーチ・センターの研究概要、および作製した高純度アルミニウムの大型単結晶の実物を展示して、雰囲気盛り上げた。

企業の方も多数参加し、熱心に討論していただいた。超高純度化した金属に対する質問が多く寄せられ、本研究で開発した「種々の物質を簡便に大型単結晶化する方法」を、地元企業と共同で特許出願を行った事は注目された。また、超高純度金属の精製技術や分析用の標準物質の提供などが多数寄せられていること、これからも企業との連携により各種金属の超高純度化を促進し、良質な試料提供を行うことが期待された。

今後の研究テーマおよび進め方についても討議した。既設の装置および研究テーマは継続しつつ、特に若い研究者の積極的な参加及び協力のもとに、チタン、アルミニウム金属を主とした「軽量高強度合金の開発とその応用」について検討すること。また耐蝕性および省エネルギーを目的として、主として超高純度化したアルミニウム、チタンに第2元素を添加し、高純度2元合金を調整し、その機械的特性の解明と応用開発研究を行うこと。さらに生体材料、環境を考慮した材料開発を目指す方向で研究報告会を終えた。



現代社会学部では、広島県の再就職支援事業に協力し、社会人を対象に社会調査士を養成している。今年度の定員は25名だが、これを上回る応募があった。社会は情報を選別するエキスパートを求めていると感じられる。

《社会調査士CSR

：Certificate of Social Researchとは》

社会調査とは、社会生活における人々の意識や生活の実態および社会現象を精密・正確に調べる技術である。一般にはアンケート調査と呼ばれるものが中心を占めている。市役所が行う市民意識調査、新聞社や放送局などが行う世論調査、企業が行う市場調査などがある。市民型の民主主義社会、消費社会では、企画・実行する前に、実現可能性、ニーズをしっかりと調べなければならない。その「調べる」技術が社会調査なのである。

しかし、本格的で科学的な社会調査を企画・実施し、その結果を分析するには、社会学、統計学、情報科学などの専門的な知識や技術が必要である。その専門的な知識と技術を習得したものに与えられる資格が「社会調査士」。「社会調査士」は日本社会学会の標準カリキュラムに基づく科目の単位認定や論文、面接審査に合格した人を大学が認定する。

主な認定科目は表のとおりである。そして社会調査士の資格認定をするのは、中国地方では本学のみなのである。



研究のまとめ発表

「社会調査士」養成講座

— 広島県職業訓練事業を受託実施 —

現代社会学部が認定

中国地方で唯一の資格認定授与

《資格の生かされる場》

例えば、企業は新商品を売り出すために、消費者の動向を知る必要がある。自治体は、新しい道路を作る上で、住民の意識を知りたいと思うことがある。このような場合に社会調査士は、マーケットリサーチや住民意識調査などのデータを収集・分析し、提供することができる。視聴率調査も、量だけでなく、情報の質を調査しなければと、現在議論が活発になっている。現状に満足することなく、よりよい社会にするために、時代を見据え、社会を洞察する市民型社会のエキスパート資格は、その発想法においても必要とされているのである。

《再就職支援事業》

広島県も再就職希望者を対象に、「社会調査士」の資格を取得してもらおう訓練事業に乗り出している。女性は20代と40代だが、男性は20代30代が多く、50代60代の方もいる。現在、立町キャンパス及び上瀬野キャンパスで講義を行い、「シャレオの活性化」などのテーマに取り組んでいる。(シャレオ=広島市中心部の地下街)

《社会調査士認定カリキュラム》



熱心にグループ討議

A 社会調査の基本事項に関する科目	社会調査論 社会調査史
B 調査設計と実施方法に関する科目	社会調査論
C 基本的なデータの分析に関する科目	情報処理Ⅱ A
D 社会調査に必要な統計学に関する科目	社会統計学
E 量的データ解析の方法に関する科目	情報処理Ⅱ B 社会調査技術論 B
F 質的な分析の方法に関する科目	社会調査技術論 A
G 社会調査の実習に関する科目	社会調査実習 社会調査演習
本学独自の科目	マーケティング論 数理社会学 社会心理学 など

この広報はホームページでご覧になれます。 <http://www.hkg.ac.jp/~kikaku/kouhou/>